

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部附属病院

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		全研修医を対象として教員によるメンター制度を導入するなど、研修医教育の質向上のための取組を実施しており、計画以上の成果を残していることが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		がんゲノム医療中核拠点病院の11拠点の1つとして指定されたこと、支援シーズの1つが企業治験を経て薬事承認に至るという特記すべき成果が出たこと、大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net)を構築し、15病院(計約8,400床)をセキュアなネットワークで結び、臨床研究データを効率的に収集できるシステムを構築したこと、新規e-learningの利用件数は院内4,122件、院外273件となっており、広く使用されたこと等が評価できる。
【診療】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		国立大学附属病院医療安全・質向上のための相互チェック(重点項目:画像診断レポート等の確認)及び特定機能病院間相互のピアレビューの調査項目策定、集計、評価を実施したことが評価できる。 また、集中治療部の運用病床数を平成28年度の20床から26床に拡大したことにより、管理料算定金額は1,600万円増収となったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		当初の予定を上回る学内プロジェクト5件、学外プロジェクト6件を支援していることが評価できる。
【業務運営】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		インセンティブ制度導入後の期間で前年度と比較し、稼働率2.8%向上、請求額は平成28年度373.5億円から平成29年度386.3億円に増収したことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント(評定に至った理由)】
 常勤教員一人あたりの論文数は低下したものの、実績向上のため教員基礎データへの登録を促す取組を意欲的に行っていることが認められる。
 臨床研究等ICT基盤構築研究事業により、競争的資金(科研費以外)の採択金額を大きく増加させていることが評価できる。